## 世界の外貨準備の通貨構成から見えること

2024 年第二四半期末の外貨準備の通貨構成が IMF から発表された。今回のポイントとしては、ドルの割合が史上最低水準に低下したこと、それにオーストラリアドル、カナダドル、その他通貨の割合がこれまでで最高水準になったこと、が挙げられる。

つまりドルからのシフトは継続中であり、それが従来は主にユーロ、あるいはポンド、円など限られた主要通貨に流れていたが、最近はもっと広範な通貨へのシフトが見られる。ドルは今でも最大のシェアを持つ通貨でドル一極体制であることに変わりはないが、圧倒的な一極体制から多通貨分散の時代になっていく可能性を示している。

通貨ごとに詳しく見ていく。

1） ドルの割合は 58.22%に低下した。長期低減傾向が続いている。ロシア、中国などが、米国の経済制裁の手段としてのドル利用に対するリスクを懸念し、ドルからのシフトを進めている。

2） ユーロの割合は 19.76%だった。ここ 9 年間ほどは 19－20%台で安定している。ユーロ圏を取り巻く地政学的リスクや政治状況の変化に関わらず、安定した割合を維持していることは驚きでもある。伝統的安全通貨のスイスフランの市場の流動性が低いため、ユーロがその代替の役割を果たしている面もある。ちなみにスイスフランの割合は 0.20%と取るに足らない。

3） 人民元の割合は 2.14%に低下した。22 年第一四半期（2.84%）以降低下傾向が続いている。中国は貿易などの決済通貨としては人民元の国際化に積極的だが、外貨準備などストックベースの利用については正反対のようだ。これは資本市場の自由化多様化に積極的でないことと表裏一体だ。

4） 円の割合は 5.59%と目立った変化なない。円はドル、ユーロに次ぐ 3 番目の通貨の位置を維持している。第二四半期はドル円が 160 円台に向かう水準だったが、特に円離れは見られなかった。円安が中長期の円ポート

フォリオの変化よりも短期的な投機による影響が主因だったことの証左でもある。

5） ポンドの割合は 4.94%だった。この 10 年間で最も高い割合だ。従来からポンドには安全通貨としての側面もある。特に新興市場国からの需要が比較的高い。コモンウェルス(英連邦)の影響か。

6） オーストラリアドル(2.24%)、カナダドル (2.68%)、両通貨の割合は増加傾向が続いていて今回も最多記録を更新した。両通貨の合計はポンドに匹敵する。両通貨の増加の要因は中国のシフトと考えられる。

7） その他通貨の割合は 4.25%と増加し、記録を更新した。その他通貨にはスウェーデンクローナ、ノルウェークローネ、香港ドル、シンガポールドル、韓国ウォンなどが挙げられる。多通貨分散の傾向を象徴する動きだ。

以上です。